

10000系「ニューレッドアロー」が 新宿線の新たな「観光特急」へ生まれ変わります

～世界的なメカニックデザイナー・大河原邦男氏が初の鉄道車両デザイン監修～

西武鉄道株式会社（本社：埼玉県所沢市、社長：小川 周一郎）は、現在新宿線で運行している10000系「ニューレッドアロー」1編成をリニューアルし、西武新宿と本川越を結ぶ新たな観光特急として、2028年度より運行を開始します。

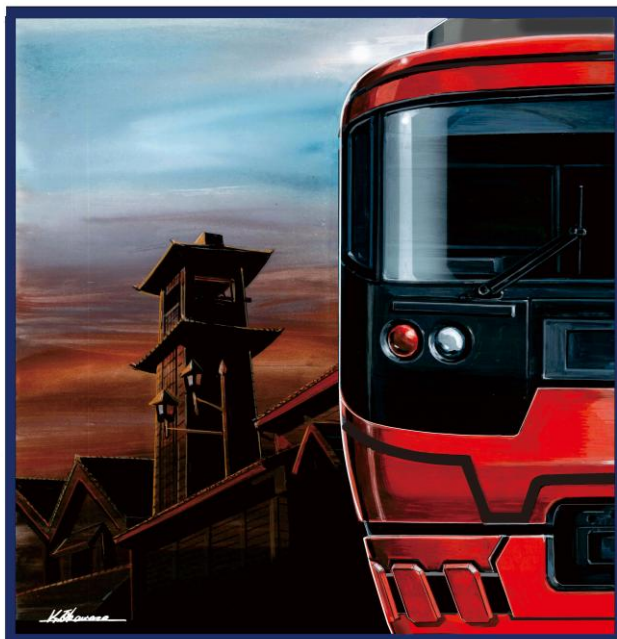
10000系「ニューレッドアロー」は、西武鉄道初の特急車両である5000系「レッドアロー」（1969年デビュー）の後継車両として登場し、1993年より新宿線の特急『小江戸』として運行を開始しました。同車両は、2027年春のトキイロの定期運行開始に合わせて、現在の定期運行を終了しますが、その後1編成にリニューアル工事を施し、2028年度より新宿線走る「観光特急」として運用を開始します。

車両デザインは、アニメ『機動戦士ガンダム』などのメカニックデザインで世界的に知られる大河原 邦男氏が監修します。洗練された機能美の中に「温かみ」や「親しみやすさ」を感じさせる大河原氏のデザインが、連続立体交差事業等によって進化し続ける新宿線の新たなシンボルにふさわしいと考え、車両デザインの監修に至りました。大河原氏が鉄道車両の外装・内装デザインを一貫して手掛けるのは、今回が初めてとなります。

車内は現在の通勤型特急車両から生まれ変わり、一般席に加えて半個室やソファ席を備えた特別感のある客室空間とします。またバーカウンターを新設し軽食・ドリンクの提供を行います。

大河原氏ならではの独創的でアイコンニックなデザインと、特別感のある客室空間を融合させ、ゆったりと移動そのものを楽しめる列車を提供いたします。

車両名称やサービス等の詳細につきましては、決定次第改めてお知らせします。



大河原氏直筆のイメージ図

【別紙】

新宿線観光特急について

1. 概要

■運行開始時期	2028年度（予定）
■運行区間	西武新宿～本川越駅間など
■使用車両	10000系 10112編成※
■編成車両数	1編成7両
■デザイナー	大河原 邦男氏（有限会社オフィス・ケイ）

※本車両にはVVVFインバータ制御を搭載した環境負荷の少ない10000系をリニューアルして使用いたします。

2. デザイナー紹介

大河原 邦男氏（有限会社オフィス・ケイ）



【コメント】大河原 邦男氏

1972年タツノコプロの科学忍者隊「ガッチャマン」でメカデザインの仕事に巡り合い半世紀以上が経ちました。アニメ作品では列車を含め多くのメカをデザインしてきました。列車が変形してロボットになると言ったデザインを多く経験してきましたが実際の鉄道のプロジェクトに関わるチャンスを得たことに感謝をするとともに責任を感じています。多くの皆様に楽しんで頂けるような列車にする為最大の努力で臨みたいと思います。

◇お客さまのお問合せ先

西武鉄道お客さまセンター TEL. 0570-005-712

音声ガイダンスのご案内により、メニューをお選びください。

[営業時間 9:00～17:00（12/30～1/3を除く）]

以上

JR 東日本と西武鉄道は、両社で連携して 「快適でシームレスな移動」と「沿線価値向上」の実現に取り組みます！

○東日本旅客鉄道株式会社(本社:東京都渋谷区、社長:喜勢陽一、以下「JR 東日本」)と西武鉄道株式会社(本社:埼玉県所沢市、社長:小川周一郎、以下「西武鉄道」)は、2020 年 12 月より進めている JR 東日本と株式会社西武ホールディングスの包括的連携のもと、新たなライフスタイルの創造と地方創生に向けて多種多様な連携を進めてきました※。

○このたび、JR 武蔵野線～西武池袋線間の連絡線を活用した直通運転、および JR 東日本新秋津駅から西武鉄道秋津駅までの乗換通路の整備により、「快適でシームレスな移動」と「沿線価値向上」を実現することについて、両社で合意いたしました。

※(参考)JR 東日本と株式会社西武ホールディングスの包括的連携について【2020年 12月23日発表】

https://www.jreast.co.jp/press/2020/20201223_ho01_1.pdf

1. 臨時列車の直通運転

JR 東日本新秋津駅から西武鉄道所沢駅の間には、新造車両の搬入や西武鉄道多摩川線の車両検査のため、JR 東日本の線路を通じて西武鉄道の車両を輸送する際に使用する連絡線があります。

現在、この連絡線は車両の搬出入時にのみ使用しておりますが、今回合意しました直通運転では、この連絡線を新たなネットワークとして活用し、新秋津駅構内と所沢駅を両社線の入口として、沿線の魅力的な観光地やイベントを目的地として結ぶことを目指します。

直通運転する臨時列車では、一般席に加え、半個室やソファ席を備えた特別感のある客室空間を創出し、ゆったりとくつろぎながら移動いただけるサービスを実現します。

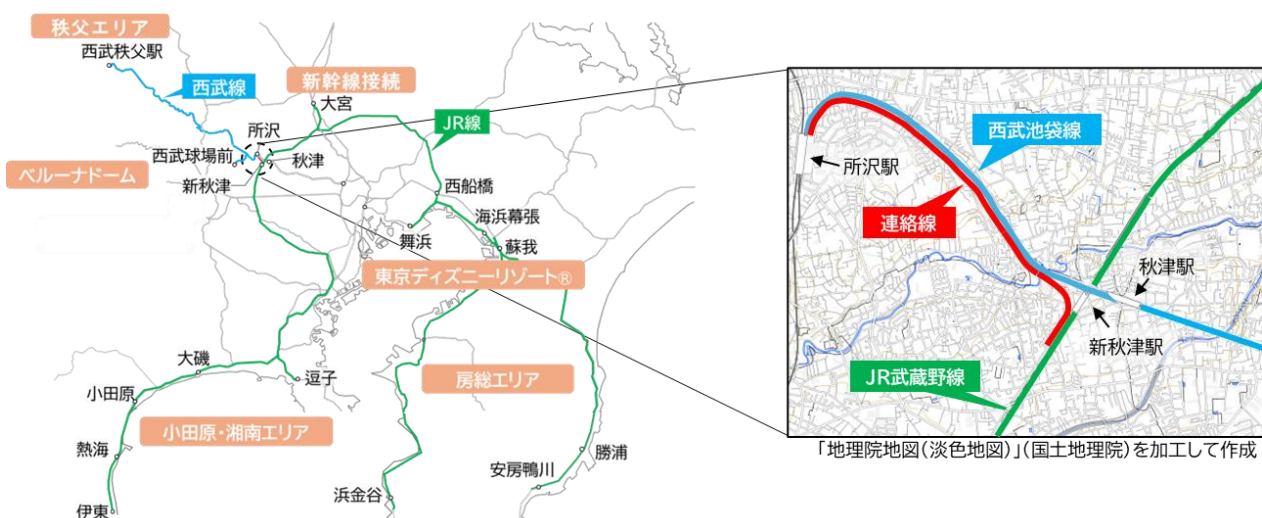
なお、直通運転に使用する車両は、西武鉄道10000系「ニューレッドアロー」をリニューアルした新宿線観光特急に、JR 東日本線への乗り入れに必要な改造を施したうえで導入する予定です。

【運行開始時期】2028 年度(予定)

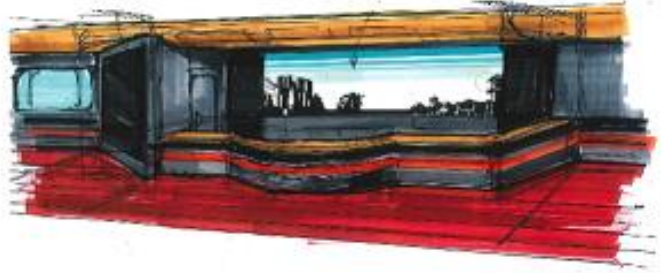
【検討中の運行プラン】JR 線沿線(小田原・湘南エリア、房総エリア、新幹線接続、東京ディズニーリゾート®等)

⇨西武線沿線(秩父エリア、ベルーナドーム等)

※西武線の所沢駅で遠から熱海駅、勝浦駅、舞浜駅などにシームレスな移動が実現することで乗換回数が削減され、移動時間そのものを楽しんでいただけるサービスが可能となります。



【使用車両】西武鉄道 10000 系



※車両イラストはイメージであり、変更となる可能性があります。

(参考)

10000系「ニューレッドアロー」が新宿線の新たな「観光特急」へ生まれ変わります
【2026 年 4 月 21 日発表】

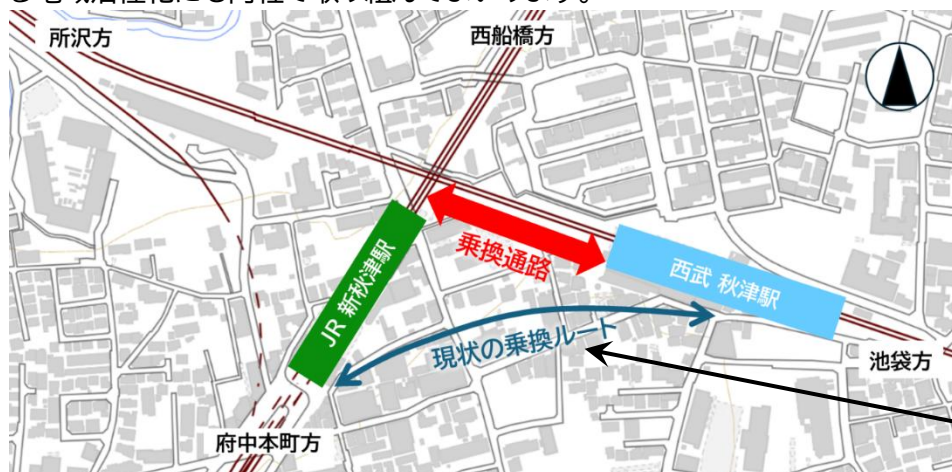
https://www.seiburailway.jp/file.jsp?newsroom/news/file/20260421_10000renewal.pdf

2. 新秋津駅－秋津駅間の乗換改善

現在、新秋津駅から秋津駅は、約 400m 離れており(両改札間の距離)、ホームからの移動距離を含めると総移動距離は約 600m、時間としては 8 分程度を要しています。また、乗換移動に伴い朝・夕の通勤・通学時間帯には、多くのお客さまが、歩車分離されていない道路を行き交う状態になっているなど、両駅の乗換は長年にわたって課題がありました。

今回、両社で乗換における利便性・安全性の向上、雨等に濡れない全天候型のバリアフリールート整備を目的として、両社の所有地を活用し、新秋津駅と秋津駅を結ぶ乗換通路の整備について、2030 年代前半の供用開始を目指して、今後関係者を交え検討を進めていきます。

また、これにあわせて、乗換改善によるお客さまの利便性向上だけでなく、両駅関連エリアの魅力発掘による地域活性化にも両社で取り組んでまいります。



乗換通路イメージ (「地理院地図(淡色地図)」(国土地理院)を加工して作成)